



※一般質問の内容は議員自身が2月定例会議事録に基づき記述しています。

QRコードを読み取り、令和3年2月定例会を選択すると視聴できます。

議員所属の会派名は、2月定例会時の会派名を掲載しています。



さの かずひこ
佐野 和彦 議員
(富岳会)

新型コロナウイルス感染症に関する事実認識と同調圧力と群集心理

問 ワクチン接種をどのようにしていくか。

部長 4月26日以降に65歳以上の施設入所者に、入所者以外は、5月10日以降に市内5か所で接種予定。以降順次、基礎疾患のある方、高齢者施設等の従事者、64歳以下の方への接種を予定しているが、現時点では時期等は未定。

問 ワクチン接種を正常な判断で促すには。

部長 市民にワクチン接種の目的や副反応等の情報を広報、新聞、ホームページ等で広く伝えコールセンターでも相談できる体制を整える。

問 ワクチン接種は任意か強制か。

部長 任意であり、最終判断は市民である。

意見 接種後、副反応が多く出た場合には、国や県の判断を待つことなく、現場の判断で中止

することなどを決めていただきたい。

ゼロカーボンシティと自動車の今後

問 市内の企業にどのような影響があるか。どのような協力を求めるのか。

部長 脱炭素の実現は日本全体の目標のため、市内の企業に限定した影響はない。まずは徹底した省エネ対策を行い、各企業の実情に応じて取り組んでいただくように働きかける。

問 以前から公共施設に充電スタンドの設置を提案してきたが、検討できないか。

部長 令和2年4月時点で市内にはPHV車141台、EV車164台が登録されている。市内の充電スタンドは26か所、充電器は30基。現時点で公共施設への設置は考えていないが、状況を見て近隣市町との広域的な連携も含め検討。

問 火力発電で作った電気をどう思うか。

市長 電気を作るために二酸化炭素を増やすのでは意味が無い。飛躍的なエネルギー革命が必要だが、一つ一つ課題をクリアし、ゼロカーボンシティを成し遂げたい。



つじむら たける
辻村 岳瑠 議員
(至誠)

子育てしながら働きやすい環境づくり

問 出産、子育て世代の中心となる20歳～39歳の女性人口が全国平均を下回っている。改善する具体策はどのように実施しているのか。

部長 ふじのみやベビーステーション事業、妊娠・出産・子育てシェアサポート事業、子育て世代包括支援センター運営事業。PR事業としては、「就活女子のUターン編」を作成、発信。さらに、令和3年度から新たに、結婚新生活支援事業や子育て応援ヘルパー等派遣事業を組入れ、出会いから結婚、出産、子育てまで切れ目なく支援し、これまで以上に力を入れていく。

問 子育て世代を、移住・定住につなげるインパクトに欠けている。0～2歳の保育料を無償化する考えはいかがか。

部長 全体を見て慎重に考えていく要素があ

る。給付系の施策として、今のところまだ議論の中にとどめている範囲である。

問 放課後児童クラブの指導員の賃金など、待遇面を改善し、指導員の後継者不足、若者世代が働く場所として興味を持てる環境にするべきと考える。

部長 現時点では待機児童がいないこと、指導員が不足している状況ではないという中で、放課後の遊びと生活の場として安心して過ごせる状況を維持できるよう努める。

長期化するコロナ禍、医療提供体制の維持の観点から、感染症対策病棟の働き方について

問 市立病院の感染症対策病棟の看護を、一部の看護師ではなく、ローテーション制で看護する仕組みを提案するがいかがか。

部長 4か月程度で人員の一部を入れ替え、職員の負担を軽減している。一時的に入院患者が増加した場合は、リリーフを行う看護体制を構築し、万全な人員配置と感染対策で看護を行っている。